

ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部 会 名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記 録 者	福田(クリーンセンター)
開催回数	第4回			池崎(環境モデル都市)
開催日時	平成21年8月24日(月)18時00分～20時00分			
開催場所	クリーンセンター			
出 席 者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	水俣自然学校	小里
	熊本学園大	西村	エコタウン協議会	田中
	市議会議員	西田	環境対策課	岡本
	婦人会	前田	クリーンセンター	福田
	リサイクル推進委員	桑畑	環境モデル都市推進課	川野
	エコネットみなまた	山下	環境モデル都市推進課	池崎
	出席者 計			計 14 名
	茶生産者	松本	市議会議員	中原
欠 席 者	水光社	廣田	教育旅行プランニング	森山
	商工観光室	光田	欠席者 計 5 名	
決定事項	○ 水俣市のごみ問題の現状分析を行う(資料:クリーンセンター福田作成) ○ 第二回目の作業部会日程:9月9日(水) 16:00～ ○ ごみステーション調査 ・調査は市民調査員を募集して実施。 ・募集方法は、関係団体への呼びかけと、市報(10/15)による周知。 ・次回の円卓会議までに、調査票を確定し、それ以降に調査員の募集を実施。 ○ ゼロウェイスト活動への協力校・団体への証書の授与 ・感謝状ではなく、証書とする。 ・第一校目の来水は9月10日。現在2校からの申し込みがあっている。関係団体への周知を行っていく。 ○ 環境モデル都市フェスタのチラシ ・9月末には印刷、配布予定。			
次回日程	平成21年10月1日(木) 18時30分～ @クリーンセンター			
内 容				
1. 推進委員会の報告				
事務局	前回の推進委員会議では、主に、①各部会の報告、②地域講座及び市民講座の報告、③水俣市の将来像についての話をした。水俣市の将来像については、次回の推進委員会でも協議する予定。各円卓会議内でも、それぞれのテーマに沿った形で、将来ビジョンについての共通認識を持ってもらいたい。 水俣市の将来像については、次回の推進委員会でも協議する予定。各円卓会議内でも、それぞれのテーマに沿った形で、将来ビジョンについての共通認識を持ってもらいたい。			
2. ゼロ・ウェイスト作業部会の報告				
藤本	作業部会では、ごみは絶対にゼロにはならないので、そこをどうゼロに近づけていくか、ということを協議した。			
宮北	費用のこともきちんとおさえながら、どう暮らしやすいまちをつくっていくのか、新しい生活の仕方を積極的に提案してもらいたい。			
福田	ゼロウェイストとは、なにをゼロウェイストとするのか。			
藤本	基本理念としては、ごみを埋め立てない、燃やさないということ。			
宮北	究極的にはゼロを目指して、具体的にはなにに取り組んでいくのか、考えていく必要がある。			
永野	ゼロウェイストの趣旨について、他の都市に影響を与えるというよりは、まず、水俣市民が楽しくなるようになればよい。バックキャストという手法に違和感を感じる。ゼロウェイストに向けて、具体的に何にとりくむのがよくわからない。			
宮北	具体的な部分を、11月までに始められるかということは、時間的に難しい。宣言の中に、議論を続けていくという一文を盛り込めばよいのではないかと。足元を固めながらも、将来像を見据えて、それに向けて一歩ずつ進めていくのが、バックキャスト。			
山下	水俣病の経験は出てくるが、産廃の話は出てこない。それらを活かしたまちづくりの理念をつくれないうか。			
宮北	産廃の話は、前回の作業部会でも出てきた。そのような経験も盛り込んでいきたい。			

山下 小里	資料にある「ゼロウェイスト宣言を憲法9条的なものに」とは、どういうことか。 水俣病を経験したまちだからこそ、ゼロウェイストの取り組みを率先してやります、ということ。人類の理想・理念としていきたい。
田中	ゼロウェイスト宣言をなぜするのか、ということも市民に伝えていく必要がある。そのためには、いまのごみ・環境問題の現状分析をわかりやすい形で提案しなければ。ごみについては、水俣市のごみ事情や税金をどのくらい使用しているか、ということを提案し、行動に結びつけていきたい。
西田	廃棄物会計を市民向けにつくっているところはあるのか。
田中	150～200自治体くらいあるが、わかりにくい。
宮北	日本では、ごみは集めて、燃やして、灰にしている。世界で3000あるうちの焼却炉のうち、約2000は日本にある。まずそこに目をつける。水俣市は22分別に取り組んでいるが、ごみの総量は減らない。リサイクル中心の政策から、リユース・リデュースに取り組んでいかなければ。
福田	ごみの総量は、6年間で2000トンは減っている。まずはごみ事情についての現状分析が必要なのではないか。可燃ごみの動向など、具体的な数値が出てこない、今後の取り組み方針が組み立てられないのでは。自分たちが毎日出すごみがどうなっているのか、なぜ？の部分をきちんと分析していきたい。
宮北	ごみの行き先や費用も年々変動している。量やコストの把握も進めていく必要がある。
宮北	次の作業部会は、9月9日に予定している。次の円卓会議で、クリーンセンターからごみの現状分析についての資料を出してもらえないか。
3. ごみステーション調査について	
藤本	ボランティア調査員への配布を前提として調査マニュアルを作成した。これを用いて、次回までに予備調査を行い、涼しくなってきた頃に本調査を実施したい。
・	調査の主体はどうするのか。
藤本	市民に調査を呼びかけ、「市民調査員」を募集したい。具体的に尋ねられたら場合は、水俣市と学園大学の協働ということだろうか。
桑畑	調査にとっても労力がかかると思うが、これまでになされてきた調査の結果だけでは足りないということか。
藤本	市街地、山手、海辺など、市内の様々な地区の特徴を把握したい。そのためには、調査対象区を多く設定する必要がある。
永野	市民の方に、ゼロ・ウェイストに向けての取り組みに関心を持ってもらうという目的もあるのでは。ごみ問題にまったく関心のなかった方が、調査に参加することによって、レジ袋のこと、ごみのことに興味を持ってもらうきっかけとなることに意義がある。
藤本	市民調査員の募集方法は、円卓会議のメンバーやごみ女連など、関係団体に呼びかけるとともに、広報(10/15)で参加を呼びかける。広報への掲載は、ごみステーション調査の実施を周知するという目的もある。 次の円卓会議までに、調査票を確定し、それ以降に本格的な参加の呼びかけを行う。関係団体に、事前周知をやってもらえるとよい。
4. ゼロウェイスト協力校への感謝状の文面について	
事務局	現在、9月に来水予定の2校から、MKPを通して申し込みがあっている。最初の表彰は、9月10日で、マスコミ等に取材してもらいたいと考えている。感謝状の文面について、ご意見をいただきたい。
・	感謝状の文面は、だいたいいいのではないか。
・	もらってうれしい、と思えるようなものにしてみたい。
・	感謝状ではなく、証書とするのはどうか。
・	MKPだけではなく、市内の関係団体へも取り組みの案内をしてもらえれば、より多くの申し込みがあるのではないか。
5. 環境モデル都市フェスタのポスター案について	
事務局	9月末には印刷をして、配布したいと考えている。
・	趣旨を加えてはどうか。
・	ペロタクシーに簡単な説明を追記してはどうか。
・	ステッカーに置いたときに見えるよう、表面の上部1/3のスペースで何をするのか、日時、場所等がわかるとよい。